

# この学校にわたしたち

2022. 10. 3

N032

## 「変えてはいけないもの」は変えず 「変えるべきところ」は変える

この秋、プロ野球界では村上 宗隆選手（ヤクルト）は5打席連続ホームランや王 貞治（ソフトバンク会長）氏の持つシーズン最多本塁打を並んだということで注目を浴びています。これまでの記録者である王氏は「本人にしてみれば特別なことではない。夏から秋にかけて、ずっと自分なりに、ことし1年やってきたことを着実にやっているだけだと思う。」とコメントを発表しました。そして、「（投球技術や投手の起用法が変わってきた中で）自分の時代よりも難しい」と指摘しています。王氏は「これだけ野球が進化している中でホームランを量産できるのは、基本を大切にしながら自分なりに努力と挑戦を積み重ね、圧倒的な技術を身につけたからであらう」と言います。技術は常に研究されてすぐに相手に超されてしまいます。ゆえにそれまでと同じことをやっていたのでは大偉業を成し遂げることはできないでしょう。「変えてはいけないもの」は変えず、「変えるべきところ」は変える、かの松尾 芭蕉が俳諧の理念としていた“不易流行”という言葉がふと思い出され、学校教育とも相通じると思いました。学校教育は現在、これまでの教育を大切にしながらも、小学生の子どもたちが大人になり、社会を形成していく10年先（2030年）を力強く生きていくための教育に転換が始まっています。



「地球温暖化」「世界経済」「新型コロナウイルス感染症」を始め、今後、ますます加速する答えのない問題をどう解決していくか…。世界だけではなく、個人レベルにおいても同じことが言えるでしょう。教育は社会の発展の為にあるのではなく、個人の幸福のためにあるものだと思います。授業において、課題を自分たちで見つけたり、自分の考えをグループで話し合ったりすることは将来、子どもたちの大きな力となってくれることと信じています。学校においても、「変えてはいけないもの」は変えず、「変えるべきところ」は変えるという視点を持ちながら、教師が「教えること」は教えるが「子どもたちが考える」ところは信じて任せる”というスタンスで見直していきたいと思えます。（プロ野球の話題が多くなり、申し訳ございません。）